

阿賀野市立吉田東伍記念博物館

友の会通信

2010-2011

No.3 (通巻60号)

2010.10.10 発行

■ 目次	能楽師・津村禮次郎師を囲む茶話会／吉田東伍記念博物館友の会 第13回研究発表会	1
	シリーズ【吉田東伍の「世阿弥」を学ぼう】 学習シート§1-2	2・3
	秋の研修旅行／サロンコンサートVol.8／友の会伝言板～事務局より／編集後記	4

発行：吉田東伍記念博物館友の会 〒959-2221 阿賀野市保田1725-1 (阿賀野市立吉田東伍記念博物館内)
TEL 0250-68-1200 FAX 0250-68-5016 web版友の会通信 <http://wind.ap.teacup.com/togo/>

博物館HP http://www.city.agano.niigata.jp/togo_museum/index.html E-mail y.togo@oregano.ocn.ne.jp

友の会行事のご案内

能楽師・津村禮次郎^{つむらいじろう}氏を囲む茶話会 ～吉田東伍の“世阿弥発見”101年に寄せて

吉田東伍の著書『世阿弥十六部集』の発行から101年目にあたり、観世流能楽師で重要無形文化財「能楽」保持者（総合認定）の津村禮次郎氏を囲む茶話会を、友の会サークル「花の会」と連携して企画しました。吉田東伍による世阿弥「発見」の今日的意義や、発見者の生地・越後、世阿弥の配流地・佐渡への思いなどを語っていただきます。第一線で活躍される能楽師・津村氏から直接お話をうかがうことができる貴重な機会です。ふるってご参加ください。

主 催 / 阿賀野市立吉田東伍記念博物館
吉田東伍記念博物館友の会

定 員 / **50名** (先着)

後 援 / 水原観世会、水原能面を打つ会

申し込み / 博物館へ電話・FAX・メールで
お申し込みください。

日 時 / **11月6日(土) 14:00～16:00** (13:30開場)

参加費 / 入館料 (一般300円、小中学生150円)
と茶菓代 300円

会 場 / 阿賀野市立吉田東伍記念博物館 2階研修室

※友の会会員は茶菓代のみ

講 師 / 津村 禮次郎 氏

【講師略歴】1942年、福岡県出身。観世流能楽師。重要無形文化財「能楽」保持者（総合認定）。海外公演を精力的に行うほか、オペラや現代演劇とのコラボレーションなど、新作能にも意欲的に取り組んでいる。

吉田東伍記念博物館友の会 第13回 研究発表会

吉田ゆき氏（友の会会員／吉田東伍記念博物館名誉館長）が、お父様の吉田冬蔵氏（吉田東伍の三男）より聞いた祖父・吉田東伍の思い出を自由に語られます。

発表テーマ 父から聞いた祖父・吉田東伍

発表者 友の会会員 吉田 ゆ き 氏（阿賀野市立吉田東伍記念博物館名誉館長）

日 時 / **平成22年12月12日(日) 14:00～15:30**

会 場 / 吉田東伍記念博物館2階 研修室

申し込み / 資料準備の都合上、12月5日(日)までに友の会事務局へ電話・FAX・メールでお申し込みください。

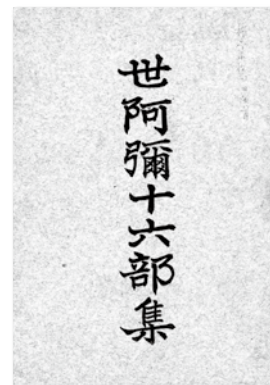
シリーズ 吉田東伍の「世阿弥」を学ぼう

2010年は吉田東伍による世阿弥伝書の校註本『能楽古典 世阿弥十六部集』（通称「吉田本」）の刊行から101年目に当たります。メモリアルイヤーとなった昨年はこれを記念する行事や出版が相次ぎ、あらためて吉田東伍の“世阿弥発見”の重要性が語られました。

今年、発見から一世紀という区切りを機会に、吉田東伍記念博物館友の会でも会内サークル「花の会」を中心に、吉田東伍の“世阿弥発見”の今日的意義や能楽研究の到達点を学ぶ取り組みを開始します。

以下は、吉田東伍の世阿弥発見を学ぶ基礎学習シート §1-2（吉田東伍記念博物館制作）で、通信紙上で適宜追補してゆきます。

※なお、吉田東伍校註『能楽古典 世阿弥十六部集』初版本（1909年2月刊）はインターネット上の近代デジタルライブラリー（国立国会図書館が所蔵する明治・大正・昭和前期刊行図書のデジタル画像を収録するサイト）で一冊まるごと（全文）を読むことができます。
「世阿弥十六部集」のアドレスと識別番号 <http://kindai.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/859394>



▲
明治42年（1909年）2月に発行された吉田東伍校註『能楽古典 世阿弥十六部集』の初版（能楽会発行）別名「吉田本」
（博物館常設展示：吉田ゆき氏寄託）

学習シート §1

『申楽談儀』（小杉本）の紹介から『世阿弥十六部集』を刊行するまで 吉田東伍の“世阿弥発見”の経緯

「**申楽談儀**」（世阿弥の次男元能^{もとよし}が出家する際に、父世阿弥の芸論を整理・筆録した記録集）の出現が世阿弥伝書（「世阿弥十六部集」）発見の呼び水になった

明治41年4月20日 (1908年)	吉田東伍 能楽文学研究会で小杉榊郎氏所蔵の『世子六十以後申楽談儀』について報告 重要なものであるとして、パンフレット仕様の『世子六十以後申楽談儀 全』の印刷を計画する
明治41年6月頃か？	安田財閥の安田善之助 ^{やすだ ぜんの すけ} の個人蔵書である松廼舎文庫 ^{まつの やぶん こ} に別系統本の「申楽談儀」（柳亭種彦 ^{りゅうてい ねんひこ} 氏旧蔵）が存在することが話題に 吉田東伍 “小杉本” と“種彦本” の異同をしらべる
明治41年7月（初旬？）	安田善之助（松廼舎文庫） 古書店から能楽関連文書を一括入手
明治41年7月中旬	“種彦本” との異同表が付された吉田東伍校註 ^{こうちゅう} のパンフレット 『世子六十以後申楽談儀 全』発行、関係者に配布（非売品）
明治41年7月中旬	安田善之助 入手の文書中に「申楽談儀」完本の存在に気づく → 吉田東伍にこの情報伝わる
明治41年7月下旬～8月	吉田東伍 早稲田大学地方講演（新潟県内各地）～ 歴史地理学会夏期講演会（鎌倉）に出張。 のち家事のため一時新潟に滞在 （この間、松廼舎文庫入手の文書群見ることできず）
明治41年8月下旬	吉田東伍 松廼舎文庫入手の能楽関連文書を実見 未発見の伝書群であることを確認する
明治41年9月～12月	雑誌『能楽』誌上で新発見の十六部の伝書について略報告 出版のための翻字作業を懸命に行う
明治41年11月	能楽文学研究会で『世阿弥十六部集』印刷内容について評定
明治42年2月 (1909年)	『能楽古典 世阿弥十六部集』 初版刊行（500部）

吉田東伍が“発見”した世阿弥能楽伝書群

() はその後の研究や新たな伝本の発見により見直された名称

①花伝書 (風姿花伝)

世阿弥が父親阿弥の遺訓をもとに書いた能楽論としての最初の著作

②花伝書別紙口伝 (花伝第七別紙口伝)

処女作の風姿花伝を著わしてから20年ほどたって書かれたその続編的口伝。「秘すれば花なり」は本書中の言葉

③五音曲条々

世阿弥が謡の曲趣を祝言・幽曲・恋慕・哀傷・闌曲の5種類に分類してそれぞれの特徴を解説

④覚習条々 (異端) (花鏡)

世阿弥 40余歳以後約20年ほどの間に体得した芸術論を記す。『花伝書 (風姿花伝)』を実践に基づき深化発展させた演技・演出・芸位・批評など広範囲の能楽論。「初心忘るべからず」は本書中の言葉

⑤九位次第 (九位)

能の芸位、修道の順序を9段階に分類。各段階に注釈をほどこし論ずる

⑥遊楽習道見風書 (遊楽習道風見)

習道 (稽古) の心得、芸の奥義などについて『毛詩』や『論語』、『般若心経』の哲理を援用するなどして論ずる

⑦至花道書 (至花道)

能芸の基本は歌舞二曲と老・女・軍の三体 (二曲三体事) であるとし、能の習道法 (学習順序) について簡潔に述べる

⑧二曲三体絵図 (二曲三体人形図)

世阿弥の演技論を記す。『至花道書』にある「二曲三体事」を図入りで詳細に説明

⑨能作書 (三道)

能の作り方の指南書。種 (人物の選び方)・作 (構成のしかた)・書 (作詞法) の3過程を具体的に説く

⑩曲附書 (曲付次第)

詞に曲をつけるにあたっては音階やアクセントに細心の注意をはらうべきことなど、『能作書』を補完する作曲上の心得を述べた教訓書

⑪風曲集

音曲の道を習うことについての手引

⑫習道書

世阿弥が観世座の面々に心得るべき条々を記し、座衆一同の結束を説いた書

⑬世子六十以後申楽談儀

世阿弥の次男元能が出家するさいに、父世阿弥の芸論を整理・筆録したもの。世阿弥68歳以前の芸談の聞き書き。元能自身の記憶や見聞も加えた記録集

⑭夢跡一紙

世阿弥が巡業先で急死した嫡男元雅を追悼、後嗣を失った悲嘆の心境を記す

⑮世子七十以後口伝 (却来華) (却来華)

世阿弥最後の芸論書。秘曲「却来風」を元雅へ口伝したが早世、同曲が途絶してしまうことを恐れ、これを書きつけておくが、深く秘すべきものであると述べる

⑯金島集 (金島書)

永享6年(1434)、72歳で佐渡に流された世阿弥が都を出てからの配流の道中、配処の様子など紀行を題材にした8編の小謡曲舞集。末尾に永享8年(1436)2月の日付があり、晩年の世阿弥の佐渡での様子を知る上で貴重

秋の研修旅行

胎内市～中世荘園・奥山荘の世界を歩く



▲板額御前の像

胎内市は、中世荘園・奥山荘（おくやまのしょう）の故地として知られます。鎌倉時代の歴史書『吾妻鑑』には阿賀野市とゆかりの深い越後城氏の女性・板額御前の活躍が記され、地頭・三浦和田氏に伝えられた古文書群も現存。加えて、近年の発掘成果により江上館跡を中心とした奥山荘歴史の広場も整備されました。日本の遺跡15『奥山荘城館遺跡 中世越後の荘園と館群』（同成社発行）の著者である胎内市教育委員会・水澤幸一さんのご案内で、中世武士の暮らしぶりを目の当たりにできる歴史のまちをめぐるります。昼食では、胎内リゾートの一つ、ロイヤル胎内パークホテルで自慢の胎内高原ビールや胎内高原ワインを楽しみます。歴史と文化と味覚の旅へのご参加を心よりお待ちしております。

期 日／11月18日(木)

集 合／午前7時30分：阿賀野市安田体育館駐車場
午前8時：新津地域学園

※ 昼食でビール・ワインを飲まれる方は車での参加をお控えください。

参加費／会員 5,500 円、非会員 7,000 円

※ 交通費・昼食代（ワンドリンク付、グラスビール or グラスワイン or ソフトドリンク）・保険料等を含みます。

※ 当日入会も可能ですのでご家族・ご友人などお誘い合わせのうえご参加下さい。

定 員／30名（先着）

申し込み／11月5日(金)までに友の会事務局へ電話・FAX・メールでお申し込みください。

行程（予定）

7:30 安田体育館駐車場発 → 8:00 新津地域学園発 → 磐越道・新津IC

→ 9:00 奥山荘歴史館・江上館跡・坊城館跡・韋駄天山墳墓遺跡・古館・野中石塔婆群など → 12:30 ロイヤル胎内パークホテル(昼食)

→ 14:00 乙宝寺(きのとまんじゅう) → 15:00 日東道・荒川胎内IC → 16:00 新津地域学園 → 16:30 安田体育館駐車場

開催せまる！ サロンコンサート Vol.8 ～秋の日本家屋に響くピアノ

サロンコンサートは、今年12年目を迎えたTME (TOGO Museum Ensemble) 演奏会と両輪で、吉田東伍記念博物館を会場に開催するミュージアムコンサートです。様々な独奏楽器をサロン（宮廷）で聴く、少し贅沢な時間をイメージした構成になっています。今年はショパン生誕200年を記念して、メインは「ピアノ」です。2002年、第37回新潟県音楽コンクールで大賞を受賞された大谷内陽子さんのピアノの響きを、紅葉の吉田東伍生家の雰囲気とともに楽しみください。

日 時／10月17日(日) 14:00 開演（13:30 開場）

会 場／阿賀野市立吉田東伍記念博物館 吉田東伍生家

入場料／友の会会員は無料。

会員以外の方は入館料（一般300円、小中学生150円）が必要です。

曲目（予定） ショパン「別れの曲」、リスト「愛の夢」、
連続テレビ小説「ゲゲゲの女房」より挿入歌「旅立ちの風」、
日本歌曲「紅葉」「この道」「宵待草」「夕焼け小焼け」ほか



ピアノ独奏 大谷内 陽子 さん

昭和音楽大学音楽学部ピアノ演奏家コースを主席で卒業。2000年、セルジョ・ベルティカローリ賞コンクール優勝。2001年、イタリア・ローマにてソロリサイタル開催。2002年、第37回新潟県音楽コンクールにて大賞を受賞。

① 会費の納入をお願いします。

会費の納入をお忘れの方はいらっしゃいませんか？今年度の会費の納入は必ず年内をお願いします。（事務局）

② 友の会サークル「白河荘を歩く会」の参加者の皆様へ

10月・12月例会は都合によりお休み、11月例会は秋の研修旅行に会として参加します。次回例会（学習会）は、来年2月の開催を予定しています。（サークル責任者：田中洋史）

友の会伝言板 ……… 事務局より



編集後記

予想通りの暑い夏でしたが、会員の皆様はいかがお過ごしでしたか。少々夏バテ気味の編集部ですが、秋は行事が盛り沢山。コンサート、茶話会、研修旅行、研究発表会。音楽、食、学びの世界に浸りつつ、博物館と友の会の活動を満喫したいと思っています。（H・T）